

- ビハーラ和歌山が公開講座□1
- 仏教いろは問答□2
- 新・祖蹟点描□3
- 青色青光、過疎問題とお寺□4
- 実践運動計画書、会計決算□6
- 響流十方、行事予定□7
- つれもて聴こら□8



2021年(令和3年)  
10月15日  
第129号

発行:「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 電話(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>

自分に重ね合わせ聴き入る参加者



「がん末期の人は4つの苦しみを抱えています。①肉体的苦しみ。これを取るには麻酔薬・鎮静薬が絶対必要。がんが骨に転移したとき

の痛みなどは、なかなか取れるものじゃない。②お金・人間関係の苦しみ。特に若い人の場合、夫婦・親子・兄弟の間でいろんな問題が吹き出してくる。③精神的苦しみ。ひと言でいえば『うつ』。うつ状態になることで、情報を遮断して自分を守ろうとする。そういう人に抗うつ剤を飲ませるのがいいのかどうか。④魂の苦しみ(スピリチュアルペイン)。これは20年以

# 死にゆく人に学ぶ

## ビハーラ和歌山が公開講座

ビハーラ和歌山(吉田敬子会長)が主催する「公開講座」が9月11日に鷺森別院本堂で開かれ、教区内から45人が参加した。公開講座では、医師として終末期医療に積極的に携わり、「生と死を語る会」を主宰している坂口健太郎さん(紀の川市・坂口内科医院院長)が、「いのちの現場から」と題し、講演。多くの人の死に寄り添ってきた経験から、「死にゆく人に学ぶ」ことの大切さを話した。

# 医師が語る終末期医療の現場

## 最期まで苦しみに寄り添う



講師の坂口健太郎医師。多くの人の死に寄り添ってきた経験から、医療の問題点についてもぎっくばらんに話した

上前にWHO(世界保健機関)で提起された問題。本当に末期になると、死をどう捉え、どう受容するかが大変重要になる。しかし、そういうことを全然理解しない医師や看護師がいる」と、話した。

参加者は、坂口医師のさっくばらんな口調に引き込まれつつ、自分に重ね合わせ聴き入っている様子だった。講演の様子は11月30日までYouTubeで公開中。公開終了後の視聴希望については、お問合せください。

11月30日まで 動画を公開中

下記QRコード、または鷺森別院ホームページへ



# 若葉と純真の

# 仏教いろは問答

2

### △コンビニの前で「煩惱」について語り合う



若葉 純真



若葉

若葉 そうだよ。じゃあ反対に、欲しい物が全部手に入ったり、したいことが全部なくなったとしたら、もう何も要らなくなるかな。

純真 うん。お釈迦さまが言われるには、ほくたちは、のどが渴けば、どうして水が欲しいという気持ちが起こるように、自分

若葉 アッ、この前のお坊さん！ 普通の格好してるんで全然分かりませんでした。

純真 ああ、こんにちは。学校の帰り？

若葉 そうなんです。ちよっとコンビニ寄って、スイーツでも買おうと思って。お坊さんは髪型も普通だし、今日の服装だとお坊さんだと分かりませんね。

純真 ハハハ。実はほくもスイーツを買ったんだ。若葉 えっ、そうなんだ

若葉 うーん…そんなことではないと思います。それ

純真 じゃあ、それを全部我慢したら、いつか欲しくなったりするかな。

若葉 うーん…そんなことではないと思います。それ



イラスト：いぶりん



ではどうするともできないものに突き動かされるようにして生きてるっていう意識できない心の深いところに、ほくたちを「生きる」と「へ」と駆り立てているものがあるというんだね。それを、難しい言葉になるけど「渴愛」と呼ばれた。「衝動」と言ってもいいかな。それが心の奥で常に働いていて、何が欲しいとかしたいという気持ちも、その動きが根本にあるんだ。お釈迦さまは、ご自分がその力に突き動かされていることを客観的に眺められて、そして、その力を止めること、その力を止めること、それが自然じゃありませんか。純真 そう。まさに人間が自然に求めることが、本当の意味での自然に逆行しているから厄介なんだ。そのことに気がついて、考え方も生き方も本当の自然の道理に合わせていくことを勧められたのがお釈迦さまなんだけど、やっぱり難しいよね…。

じゃあ、ほくは帰ってスイーツを楽しむよ。またどこかで会いましょう。(本紙は本真一朗十大須賀拓善)

# 和歌山市大空襲の体験談に学ぶ

和歌山市大空襲の日から76年目を迎えた7月9日、第28回「平和を希う念仏者の集い」が鷺森別院本堂で開かれ、66人が参加した。

参加者は、午後1時30分から全戦没者追悼法要をお勤めの後、高橋克伸さん(和歌山市立博物館元学芸員)の講演「和歌山市大空襲の証言について」の記録から「を聴いた。」

講演で高橋さんは、和歌山市への空襲は、1945年(昭和20)1月9日に現在のJR和歌山駅付近に250キ爆弾約10発が落とされたのを皮切りに、7月30日まで合わせて10回行われたとして、その概要を説明。

7月9日の大空襲については、午後11時58分からB

29爆撃機108機が2種類の焼夷弾、合わせて17万6

## 第28回 平和を希う念仏者の集い



当時の航空写真で和歌山市大空襲の範囲を説明

## 佐賀教区で義援金募る

### 令和3年8月豪雨災害



本堂が床上浸水被害に遭った佐賀県武雄市の崇専寺(佐賀教区教務所提供)

8月11日から15日にかけて九州付近に前線が停滞し、前線に向かって太平洋高気圧の周辺から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、九州地方を中心に全国の多くの地域で河川の氾濫や浸水被害、

土砂災害が発生した。佐賀県では床上浸水・床上浸水の報告だけでも739件に上る。宗門でも、門徒3人(安芸教区2人、佐賀教区1人)が亡くなったほか、各地で門信徒宅が浸水被害などに

遭い、寺院の被害も32カ寺に上っている(9月8日12時現在)。佐賀教区では義援金を募っている。【郵便振替】01760014171546、加入者名「浄土真宗本願寺派佐賀教区災害対策委員会。通信欄に「令和3年8月豪雨被害」と明記。【問い合わせ】佐賀教区教務所☎電話09522237017。

## 青色青光



宗派からの情報に耳を傾ける参加者

和歌山教区公聴会が9月13日と21日、宗派の作成したDVDを視聴するという形で鷺森別院本堂で開かれ、合わせて8人が参加した。

DVDでは、石上総長のあいさつ後、コロナウイルス感染症拡大状況における得度習礼・教師教修等、子どもたちの笑顔のための募金、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800慶讃法要、新しい持続可能な宗務組織に向けた改革の各項目を本山の担当職員らが説明。

参加者は視聴した各項目への意見を用紙に記入。これらは教務所で集約され、宗派総局へ送られた。状況を考慮、築地本願寺職員を中心として勤められた。鷺森別院では、プロジェクトで法要のライブ動画を上映。参拝者6人が、現地でのお勤めに合わせて「正信念仏偈作法」を唱和。法要で「平和の鐘」がつかれた同時刻、教区内12カ寺でも平和の鐘がつかれた。

## 千鳥ヶ淵の法要にリモート参拝

第41回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要が9月18日に勤修された。例年、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑(東京都千代田区三番町)を会場としているが、台風14号の接近により築地本願寺本堂に変更し、また新型コロナウイルスの感染

状況を考慮、築地本願寺職員を中心として勤められた。鷺森別院では、プロジェクトで法要のライブ動画を上映。参拝者6人が、現地でのお勤めに合わせて「正信念仏偈作法」を唱和。法要で「平和の鐘」がつかれた同時刻、教区内12カ寺でも平和の鐘がつかれた。



ボードゲームでご縁づくり

和歌山教区仏教青年連盟では、第2回「T.B.R.A.M.A.T.E」ボードゲーム会を7月18日に別院本堂で開催。お寺とのご縁になればと企画したもので、初参加の2人を含む10人がゲームを楽しんだ(写真)。

## 過疎問題とお寺②

### 本堂再利用の事例

楠原 晃紹  
(過疎対応支援員)

前号で宗教学者解散・合併後に残った本堂や境内地を有効活用するためのアイデアをいくつか紹介したところ、教区内外から予想以上に多くの反響が寄せられました。少し紹介しますと、

①実家の過疎の寺(代務住職が管理)には広い境内があるためキャンプ場として活用できないだろうか。布施などの収入が少なく、

## 解体費用ゼロに撤去 新築 約半分の負担で



撤去予定だった廃寺本堂を再利用して5年前に完成した岐阜県羽島市光泉寺本堂(同寺提供)

このケースの場合、立派な木材が廃棄されるのは惜しいと感じた寺社専門の建築会社の社長さんが仲介し

て話が進んだのですが、本堂新築のための部材の6割を解体した本堂の木材で賄うことができました。双方にとってこの上ない解決方法であり、このような情報をもっと共有できればと思ったことでした。

## 廃寺の木材を本堂新築に活用

②寺院解散時に境内地などを地元区や町に寄付したいと思っていたが、企業やNPO法人などに地域おこしの拠点として有償で貸し出せば、活用してもらえ

るだろうか。理が付いたあとも、解体費用の問題で本堂などが残っ

た場合は、地域の拠点でもあった場所ですので、有効

活用できる術を提案していきたくと思っています。

宗教学者解散後、本堂の木材が別の本堂新築に再利用された事例が、今年4月23日付の中外日報に紹介されていました。

③本堂・庫裏などの建物の取り壊し費用を考えると、古民家再生のような観点で有効活用できないか。過疎対応支援員として、

少なからぬ寺院の解散や合併の過程に寄り添い、少しでもお手伝いできればと思っています。

解散や合併という形で整

て話が進んだのですが、本堂新築のための部材の6割を解体した本堂の木材で賄うことができました。

この事例を紹介するにあたり編集部から光泉寺さまに連絡を取ってもらったところ、吉田頼成住職から「寺院の修復・再建も大変だが、今後どのように寺院を維持運営していくのか、その方法が見つからないことを危惧している」との言葉が寄せられました。

お寺の未来に危機感を感じているのは、どこでも同じだと再確認した次第です。(日高組妙願寺住職)

# 新 祖蹟点描

## 31 六角堂⑤

「示現」(夢告)にあずかり、夜明けを待たずに六角堂を出て法然聖人を訪ねられたこと、そして今度は、法然聖人のもとへ百日間通われて「生死出づべき道」を聞き抜かれ、ついには法然聖人に帰依されたことが記されている。

は、親鸞聖人ご自身が『顕浄土真実教行証文類』(教行信証)の後書きにあたる部分に、「しかるに愚禿の禿、建仁辛酉の曆、雑行を棄てて本願に帰す、(『註釈版聖典』472頁)と述べられていることから、解決がつく。

これは、親鸞聖人ご自身が『顕浄土真実教行証文類』(教行信証)の後書きにあたる部分に、「しかるに愚禿の禿、建仁辛酉の曆、雑行を棄てて本願に帰す、(『註釈版聖典』472頁)と述べられていることから、解決がつく。

「示現」(夢告)にあずかり、夜明けを待たずに六角堂を出て法然聖人を訪ねられたこと、そして今度は、法然聖人のもとへ百日間通われて「生死出づべき道」を聞き抜かれ、ついには法然聖人に帰依されたことが記されている。

くとも38歳の時点で恵信尼公の手紙を目にし、六角堂の夢告が法然聖人のもとへ赴く契機になっていったことを知った可能性がある。というのも、覚如上人が38歳のとき父の覚恵上人(覚信尼公の長男)が亡くなるが、それによって恵信尼公の書状類を相続したのか、覚如上人は4日後の徳治2年(1307)4月16日付で、その一通に書き入れをしているからである(『註釈版聖典』817頁注)。

### 夢告を授かったのはいつか

親鸞聖人の六角堂参籠に關しては大きく3つのことが問題にされていると、本連載の第27回で述べた。その1つ目が、参籠されたのがいつだったかという問題である。

親鸞聖人の奥方・恵信尼公が末娘の覚信尼公に宛てた手紙のなかで、若き日の親鸞聖人が、比叡山を出て六角堂に百日こもられ後世を祈られた、と記していることはすでに触れた。その手紙の続きには、親鸞聖人が、六角堂に参籠して95日目の夜明け前に「



周りをビルに囲まれた六角堂

### 食い違う恵信尼公の手紙と『伝絵』の記述

51)が聖人の御一代記を絵巻物にした『本願寺聖人親鸞伝絵』(『善信聖人親鸞伝絵』などとも)には、六角堂の夢告が「建仁三年」のこととして語られているからである。

覚如上人は1295年(永仁3)に、26歳で初めて『伝絵』を制作した。その第1号は現存していないが、同年制作された「高田専修寺本」は、法然聖人のもとへ赴かれたのが「建仁第三の曆」とし、六角堂の夢告を同じ年である「建仁

三年辛酉」としている。ここで事情を複雑にしているのは、『伝絵』諸本の多くで年次と干支がずれていることである。建仁三年は正しくは癸亥で、辛酉であれば、本来は建仁元年としなければならない。これは覚如上人が『教行信証』の「建仁辛酉の曆」を「建仁三年」と勘違いしたことが原因ではないかといわれるが、当初は勘違いをしたとしても、74歳で制作した「東本願寺康永二年本」でも同じ間違いを踏襲しているのは不思議である。しかし考えてみると、覚如上人が建仁三年を「建仁辛酉」のつもりで使っているのだとしたら、その年が六角堂で夢告を授かり、法然聖人に帰依した年であるという点では、恵信尼公の手紙と違わないことになる。違いはむしろ、『伝絵』の構成が、親鸞聖人が吉水に法然聖人を訪ねてから六角堂で夢告を授かったところと、覚如上人は遅

くとも38歳の時点で恵信尼公の手紙を目にし、六角堂の夢告が法然聖人のもとへ赴く契機になっていったことを知った可能性がある。というのも、覚如上人が38歳のとき父の覚恵上人(覚信尼公の長男)が亡くなるが、それによって恵信尼公の書状類を相続したのか、覚如上人は4日後の徳治2年(1307)4月16日付で、その一通に書き入れをしているからである(『註釈版聖典』817頁注)。

つまり、覚如上人は晩年まであって『伝絵』の話の順序を変えなかった節もあるが、そこに何らかの根拠や意図があったのかわからない。憶測は尽きない。

※『註釈版聖典』の「御伝鈔」は、『伝絵』西本願寺本に依拠し、いわゆる吉水入室を「建仁第一の曆」、六角夢想を「建仁三年癸亥」としています。

【参考文献】平松令三『聖典セミナー・親鸞聖人伝絵』(本願寺出版社) (本紙編集部)

2021年度

重点プロジェクト

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) 和歌山教区委員会

総合基本計画

和歌山教区では、宗門の総合基本計画に基づき、伝灯奉告法要のご親教「念仏者の生き方」に学び、自他ともに心豊かに生きることのできる社会をめざし、さらに僧侶・寺族・門信徒が手を携えて真の同朋教団・伝道教団としての責務を果たすため、また、寺院活動の活性化をはかり、ともに

内容を具体的に明確化するため、教区の会議体、教化団体、各種団体とともに、左記の専門部会を設置し、相互の連携のもとで運動の展開を図ります。

お念仏を喜ぶ仲間の輪をひろげるため、次世代を担う人の育成を継続して行い「御同朋の社会をめざす運動」を展開いたします。

【研修部会】僧侶・寺族の研修、伝道教化・法座活動の実践と支援に関すること  
【教化部会】連研、門信徒の教化、子ども若者(縁づくり)推進に関すること  
【広報部会】教区報・テレビホン法話・ホームページなど様々な媒体を使用した広報活動に関すること  
【社会部会】人権啓発、平和問題への取り組み、社会福祉活動推進に関すること

スローガン

「結ぶ絆から、

広がる縁へ」

活動内容

運動推進にあたり、活動

「重点プロジェクト」は、「御同朋の社会をめざす運

重点プロジェクト

重点プロジェクトについて

「実践運動」(総合基本計画に基づき、具体的な実践目標を定め取り組みものです。和歌山教区では、「重点プロジェクト」の「実践目標」を「(1)貧困の克服に向けて『Dana for World Peace』子どもたちを育むために」、「(2)本願寺鷲森別院再建30周年に向け寺院活動の活性化をはかる」と掲げ、組・寺院と連携しつつ、強力に取り組むを進めていきます。

**推進期間**  
2020(令和2)年度から2023(令和5)年度までの4年間

**推進計画**  
▼達成目標  
(1)今、私にできることから始めよう  
(2)ともにお念仏を喜ぶ仲間の輪をひろげる

**▼推進計画**  
(1) 具体的活動の設定  
(2) 門信徒学習会の開催

2020(令和2)年度 和歌山教区一般会計歳計決算

【歳入】			
款	費目	決算額	説明
1	教区賦課金	33,620,248	教区賦課金
2	宗派交付金	35,256,751	宗派・各種団体交付金
3	願記手数料	934,000	願記手数料(教区分)
4	回金	0	
5	雑収入	546,877	冊子売上、預金利息等
6	繰越金	8,688,585	
合計		79,046,461	※①

【歳出】 2020(令和2)年4月1日～2021(令和3)年3月31日			
款	費目	決算額	説明
1	実践運動推進費	6,088,383	実践運動関連並びに補助成費等
2	会議費	214,823	教区会、組長会、その他会議
3	宗会選挙事務費	55,135	選挙委員会開催費
4	教務所費	55,919,655	人件費、事務費、負担金
5	維持費	1,700,000	水道光熱費、維持管理費
6	回金	5,900,000	各種特別回金へ回付
7	予備費	0	
合計		69,877,996	※②

※①-② ¥9,168,465は翌年度繰越

2020(令和2)年度 本願寺鷲森別院一般会計歳計決算

【歳入】			
款	費目	決算額	説明
1	懇志	4,767,970	各種懇志
2	回付金	28,134,888	特別会計・教区会計より回付
3	各種交付金	260,000	教化助成費
4	維持費	4,416,170	護持費、参与会費
5	負担金	33,221,801	人件費負担金(教区・幼稚園)
6	雑収入	1,196,977	預金利息等
7	前年度繰越金	5,919,740	
合計		77,917,546	※①

【歳出】 2020(令和2)年4月1日～2021(令和3)年3月31日			
款	費目	決算額	説明
1	法務費	1,234,315	荘厳費、法要費
2	教化費	877,340	常例布教、各種教化費
3	事務費	61,243,229	人件費、水光熱費等
4	会議費	9,510	責役・総代会
5	維持費	5,376,511	営繕費、保険料
6	積立金	3,100,000	営繕積立金、退職積立金
7	予備費	0	
合計		71,840,905	※②

※①-② ¥6,076,641は翌年度繰越

# 響流十方

## 10・12月の催し

### 本山

10月15・16日 龍谷会(大谷本願報恩講法要) (大谷本願)

10月23日 全国真宗青年の集い(本山大会)※リモート

10月中旬・10月23日 献菊展(京都菊栄会協賛)(本願寺)

11月22・23日 秋の法要(全国門徒総追悼法要)(本願寺)

### 和歌山教区

12月20日 御煤払(本願寺)

12月31日 除夜会(本願寺)

10月4日 近同推研修部会広報部会※リモート

10月6日 布教団連続法座(鷺森別院)※リモート

10月9日 仏教青年連盟ホードゲーム会(鷺森別院)

10月19日 人権僧侶研修会(鷺森別院)

11月8日 布教団連続法座(鷺森別院)※リモート

### 教区内各組

**和歌山組**  
12月4日 組僧侶寺族研修会(鷺森別院)

**和歌山西組**  
10月中旬 組内会(光源寺)

**海南組**  
11月中旬 組内会(光源寺)

12月中旬 組内会(光源寺)

12月4日 人権啓発推進僧侶・寺族研修会(光徳寺)

11月13日 仏教青年連盟ホードゲーム会(鷺森別院)

11月16日 仏教婦人会連盟清掃奉仕

12月13日 布教団連続法座(鷺森別院)※リモート

### 海草組

12月4日 組内会(報徳寺)

### 有賀組

12月11日 組内会・人権啓発推進僧侶研修会(正善寺)

### 有田北組

10月2日 臨時組内会(橋家)

12月未定 寺族・僧侶研修会(未定)

### 日高組

10月2日 第10期連続研修会⑩(善宗寺)

10月4日 組報ひかり編集委員会(善宗寺)

12月12日 真宗法座・第10期連続研修会⑩・終了式(未定)

12月18日 組内会(未定)

※新型コロナウイルスの影響により変更する場合があります。詳細は各組事務所へ。

## 教務所・別院人事

異動 7月1日付

で、和歌山教区教務所賛事・本願寺鷺森別院参勤の小山融正職員が、浄土真宗本願寺派宗務所寺院活動支援部へ。小山職員は、2002年(平成14)4月1日から19年3カ月間、教務所・

別院に勤務した。新職員 8月17日付で、板原充弘(44歳、有田南組円光寺住職)が、和歌山教区教務所・鷺森別院に非常勤職員として採用された。板原新職員は「大阪府豊能町の出身で、和歌山に来て3年になります。山科別院に6年間勤務経験がありますので、その経験を活かしながらいろいろなおことに挑戦したいと思っております。教務所にお越しの際は、気軽にお声を掛けてください」とメッセージ。



板原充弘新職員

園淵和貴師(大阪市西淀川区・西法寺)。毎座午後1時30分からお勤め、引き続き3時ごろまで法話。

### 鷺森別院の催し

常例法座  
10月15、16日、田中諦康師(東近江市山路町・稱名寺)。11月15、16日、高澤恒師(宇陀市菟田野字賀志・真證寺)。12月15、16日、

### 報告

11月24・28日までの5日間勤める。講師は未定。期間中、11月27日は、和



田中諦康師

12月4日 組内会(報徳寺)

# つれもて 聴こら

浄土真宗とは、口に「南無阿弥陀仏」と称えさせていただく法義であります。

浄土真宗を開かれた親鸞聖人は、南無阿弥陀仏とは阿弥陀さまの「名号」であるとお示しになりました。

「名」には「名告る」という意味があります。「号」は本来「號」と書きますが、この漢字には虎という字が入っております。虎はとても大きな声でほえますから、阿弥陀さまは、私に聞こえるくらい大きな声で名

阿弥陀仏は「名告り」であると同時に「喚び声」である、とおっしゃいました。阿弥陀さまは、私たちを呼んでいてくださるんだと。

## 尾崎道裕

ちょっと変な感じがしませんか。私たちが人に呼び掛けるときは、その人の名前を呼びます。ところが阿弥陀さまは、私を呼ばれるときに「南無阿弥陀仏という仏ですよ」と、ご自身の



にもあります。それは、親が赤ちゃんに「お母さんですよ」「お父さんですよ」と、呼び掛ける場合です。

上の娘が生まれて3カ月ほど経ったときのことです。夕方帰ってテレビをつける

見ますと、『頭のよい子は「こぼ」で育つ』(外山滋比古著)という本が置いてありました。

この本を読んで妻はテレビを消してほしいと言ったんだなあと思いながら私も

書かれていました。つまり、心を育てるのは言葉であると言われるのです。

生まれたばかりの赤ちゃんにとっては、耳に入ってくる声はただの音でしかありません。しかし何度も何度も聞いていくうちに、その音の持っている心や響きが伝わって、自ずと音の意味を理解できるようになるというのです。

妻はよく娘に向かって「お母さんだよ」と、呼び掛けておりました。それは妻の名告りではありますが、それはそのまま娘への呼び声でもありました。

そこには「お母さんだよ。お母さんと呼んでおくれよ。私は決してあなたのそばを離れないよ」という思いが込められていたと思うのです。妻は自分の声を娘に聞かせたかったんだなあと感じました。

阿弥陀さまがまだ法蔵菩薩さまであったとき、四十八願をお建てになったあと、重ねて誓われたお言葉が、重誓偈というお経さまで、

その一句に「名声超十方」(名声十方に超えん)とございます。

これは阿弥陀さまのお誓いです。十方はすべての方向ですから、あなたのところに必ず南無阿弥陀仏と届きますよ、ということですよ、

どれだけ大きな声でも、私がそこから離れていけば、やがては聞こえなくなりま。しかし私の声でしたら、私がどこにいようと必ず私に聞こえます。

「私は南無阿弥陀仏となって、あなたのところに至り届き、あなたの称えるお念仏となって口からほれ出て、あなたを喚ぶ仏になります。あなたの人生から片時も離れず、一緒に生きていきますよ」。このように阿弥陀さまが誓ってくださいているということです。

ひと声ひと声のお念仏のなかに、阿弥陀さまのお心を大切に聞かせていただきたいと思うことがあります。

## お念仏に阿弥陀さまのお心を聞く

告ってくださっていますよ、と、うなづかれています。

その親鸞さまは、南無

名前を名告られるのです。でも、これによく似た

とが、私たちの生活のなか

と、妻がテレビを消してほしいと言っているのです。テレビを消して机の上を

読んでみますと、言葉、特に声に出す言葉と心の発音には深い結び付きがあると

奈良県吉野郡下市町・

実原寺) 7月15日の鷲森別院常例法座の法話から